

大学図書館問題研究会京都支部第36回京都支部総会議案

【第1号議案】

2012年度（2012.7～2013.6）活動総括及び

2013年度（2013.7～2014.6）活動方針

1. 2012年度活動総括

(1) 研究交流活動

2012年度は2回以上のセミナー開催を年度目標とし、4回のセミナーと1回の共催の見学会を開催してこの目標を実現しました。ワンディセミナーの2回目は大分県別府市の立命館アジア太平洋大学で開催し、大図研福岡支部と交流しました。これらの企画への参加を通じて京都支部に入会した会員は6名に上りました。

1) 大図研京都ワンディセミナー

「立命館大学探訪～今話題の「ぴあら」と日本文化デジタル・ヒューマニティーズ
拠点研究の一端に触れる」

日時：2012年12月15日（土）13:30～17:30

講師：金子貴昭先生（立命館大学衣笠総合研究機構研究員）

場所：立命館大学衣笠キャンパス ぴあら、アート・リサーチセンター

参加費：大図研会員は無料／非会員は500円

参加者数：42名

2) 大図研京都ワンディセミナー

「APU（立命館アジア太平洋大学）探訪 と 別府湯けむり温泉企画」

日時：2013年2月16日（土）～17日（日）

講師：藤谷篤氏（立命館アジア太平洋大学 APU ライブラリー（委託職員））

西村泰成氏（長崎総合科学大学）

会場：APU（立命館アジア太平洋大学）、別府温泉

参加者数：17名

3) 大図研京都支部スピンオフ企画「Code4Lib Conference 2013 参加報告」

日時：3月14日（木）19:00-21:00

講師：岡本真氏（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）

会場：鍵屋荘

参加者：18名

4) 大図研京都ワンディセミナー

「「図書館活用法」授業評価活動～明治大学図書館におけるリテラシー教育評価の実践」

日時：2013年5月25日 13:30～16:45

講師：矢野恵子氏（明治大学 和泉図書館）

会場：池坊短期大学 美心館 5 階 53 教室

参加者数：44 名

5) 「同志社大学ラーニングコモンズ見学会」

日時：2013 年 6 月某日

主催：京都情報図書館学学習会、ku-librarians 京都大学図書系職員勉強会、大学図書館問題研究会京都支部

参加者数：38 名

(2) 支部報

2012 年度刊行分につきましては、発行期日の遅れは生じましたが、計画的発行に努めました。連続企画としての「わたしの図書館紹介します！」や、新入会員が入会するたびに「新入会員挨拶」を継続して掲載してきました。また、ワンディセミナーや近畿 3 支部新春合同例会の報告も掲載するなど、研究交流活動とも連携する形をとっています。

2012 年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.290 (2012/10/15 発行)

- 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- 全国大会終了報告
- 大学図書館問題研究会第 35 回京都支部総会議案
- 支部委員挨拶

2) 支部報 No.291 (2012/12/15 発行)

- 大図研近畿 3 支部新春合同例会 2013 のご案内
- 図書館総合展参加報告 (坂本拓)
- 連続企画：わたしの図書館紹介します！
紹介番号 4 京都大学理学部中央図書室 (由本慶子)
- 新入会員挨拶 (森彩乃, 小林奈緒子)
- 緊急予告！大図研京都ワンディセミナー「APU (立命館アジア太平洋大学) 探訪と別府湯けむり温泉企画」のご案内

3) 支部報 No.292 (2013/02/15 発行)

- 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- 小特集：大図研京都ワンディセミナー「立命館大学探訪～今話題の『ぴあら』と日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点研究の一端に触れる」参加報告
 - ・立命館大学 知の拠点で学び考えたこと (角野容子)
 - ・ARC モデルの衝撃とピア・ラーニング (大西賢人)
 - ・始まりはいつも京都から (加川みどり)
- 新入会員挨拶

4) 支部報 No.293 (2013/04/15 発行)

- 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- 大図研ワンディセミナー「APU (立命館アジア太平洋大学) 探訪と別府湯けむり温

泉企画」参加報告 別府湯けむり深訪記（河原茂記）

- 大図研近畿 3 支部新春合同例会 2013「中之島図書館：挑戦の歴史とこれから」参加報告 大図研近畿 3 支部新春合同例会 2013 に参加して（今野創祐）

5) 支部報 No.294（2013/06/15 発行）

- 大学図書館問題研究会京都支部第 36 回京都支部総会のご案内
- 大学図書館問題研究会京都支部第 36 回京都支部総会議案
- 京都支部委員の募集について
- 大図研京都ワンディセミナー「Library SHIFT! ～Hot な公共図書館最前線の Cool な取組みを Beer 片手にディスカッション!～」のご案内

注：支部報 No.289 は、2012 年度の発行であるが、2011 年度 1 号議案ですすでに報告済

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。また、2011 年度以降、支部報記事の電子化を実施しています。Web サイトは 2013 年 6 月 25 日現在、15,427 アクセスを得ています（アクセスカウンター設置：2006 年 8 月 22 日）。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.156（2012 年 8 月 24 日）から no.172（2013 年 6 月 3 日）を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、従来の支部委員会議事録、支部企画案内等に加え、2011 年度からは支部報の発行を目次・概要とともに紹介する記事を配信しています。また、月 1 回のイベント案内を定期的に配信することに加え、支部会員によるメーリングリストの積極的な活用を狙って、試行的に支部委員という立場を離れて、一人の会員という立場から個別にイベント案内を発信しました。

さらに、Twitter の活用を図り、317 アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナー告知、支部報や議事録の発行の広報を行いました。

(4) 組織活動

会員数は、2013 年 6 月 25 日現在 67 名で、2012 年度当初よりも 4 名増加しました。特別企画やセミナー開催、個別の勧誘等を積極的に行うなどして、あらたな会員獲得に努めました。結果、来年度加入会員も含めると会員数は 71 名となり、目標会員数 70 名に到達することができました。

また、本年目標としておりましたニーズ調査は行なうことができませんでした。

(5) 財務

2012 年度に引き続き、会費納入率の向上に努めていますが非常に芳しくない状況です。所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行いましたが、2010、2011 年度総会で宣言した努力目標未納率 0%には至っていません。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2008 年度 1%、2009 年度 3%、2010 年度 5%、2011 年度 9%、2012 年度 21%（2007 年度以前は 0%。休会扱い 3 名を含む）。

特別研究交流会企画費を執行し、別府にてセミナーを行ないました。

2. 2013 年度活動方針

(1) 研究交流活動

- 1) 会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。
- 2) 会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。そのためにも、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。
- 3) セミナー開催頻度としては、2013 年度も年 2 回程度を目標といたします。

(2) 支部報

定期的に年間 6 冊、偶数月の 15 日の発行を目指します。また正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。今後も、会員に「発表の場を提供する」という目標のもと、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することを目指し、引き続き努力していきます。

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Web サイトを随時更新します。支部報記事の電子化・公開作業、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進強化は今後も継続していきます。

また、メールマガジンについても、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

さらに、メーリングリスト“ゆりかもめ”について、その目的である“会員相互の親睦と交流を盛んにすること”の達成を目指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

(4) 組織活動

常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、支部組織について支部にて再検討する必要があります。京都支部としては継続して活動を行い、支部の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都支部に在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

(5) 財務

常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、会費徴収の方法について支部にて再検討する必要があります。また、長期滞納者に対し、積極的な督促を行い、未納率 0%を目指します。特別事業費、特別研究会企画費を引き続き計上し、会員増を目指していきます。